

平成28年度小丸山小学校学校経営計画

～同じベクトル オリジナリティ スピード感～

Vector Originality speedy

1 学校経営方針

私達教職員は、児童の「わかりたい。できるようになりたい。」という願いを真剣に受け止め、かなえてやらなければならない。そのために教職員一同、一致協力し、家庭・地域と力を合わせて小丸山小学校の教育を推進していく。安易な前例踏襲はせず、全員が学校経営参画意識を持ち、同じベクトルで取組むことが大切である。そのうえで、教師それぞれのオリジナリティをいかし、その良さを共有することが教師自身の成長につながる。さらに、子供の困り感、人間関係のねじれには素早く対応することが子供の願いに応えることである。教師が成長することで学校力が強化され、子供が伸びることにつながる一年間をすごしたい。よろしくお願いします。

2 重点項目と目指す姿

教育目標	21世紀をたくましく、しなやかに生き抜く子どもの育成		
重点目標			
① 学校力の強化	② 実践力の育成	③ 教師力の向上	④ 人材育成
目指す学校像	目指す児童像	目指す教職員像	
○すべての児童が主体的に生き生きと学ぶ学校	◇ 自分から進んで 取り組む子 「自分から」	○やる気と情熱を持って、教育にあたることができるたくましい教師	
○声高らかに、あいさつと歌声が響く学校	◇ よく考えて行動する子 「知恵と工夫」	○学習指導・生徒指導に高い専門性を有するために学び続ける教師	
○地域・保護者や児童の期待にこたえられる学校	◇ 思いやりのある子 「思いやりの心」	○組織の一員としての責任感や協調性がある教師	
⑤ 環境整備			
学校環境5S 整理・整頓・清掃・清潔・躰			

RPDCA

Research Plan Do Check Action

学校経営計画の具現化のために・・・

- 1 徹底すること
- 2 可視化すること（情報の共有）
- 3 検証すること

3 中・長期的目標

(1) 学力向上

◎わかる・楽しい授業の実践

①21世紀型能力を意識した授業展開

- ・小丸山スタイルに位置づけ、児童に実践力をつける。教科横断的に育成すべき資質・能力（自分の行動を調整する、生き方を主体的に選択できる、コミュニケーションをとる力、自覚して行動する力など）を意識した授業設計を行う。
- ・伝え合う場、深める場などでアクティブラーニングを意図的に仕組む。

②学力向上タイムスケジュールの活用

- ・帯タイム、放課後補充、小丸山検定の具体的な計画を立て、全職員で取り組む。週案に明記し、計画的に取り組む。結果の検証を毎学期行う。

③活用力の育成

- ・学力調査の結果を分析し、求められている能力を明らかにし、ものの見方、考え方を指導し、取り組ませる。
- ・過去の学力調査問題や学力向上プログラムを活用する。週案に記載し、計画的に取り組む。

④ICTを活用した授業の推進と情報モラルの教育を推進する。

⑤家庭学習の充実

- ・家庭学習と授業を連動させ、小丸山っ子ノートの充実を図り、実践力をつける基盤とする。

◎「自分から調べたくなる学びたくなる校舎」「みんなと何かをすることが楽しいと感じられる校舎」→意図を持ったオープンスペースの運営

①多目的教室・オープンスペースに学習のための多様な教材、並行読書教材等を用意し、教科の進行に対応した掲示・展示を行うことで学習内容に対する興味を持たせ、学習に対する動機づけをする空間を創出する。

②学習形態を変化させ、児童同士が関わり合える学習の場を設定する。

◎外国語活動の充実

①拠点校として、5、6年外国語活動、1～4年学校行事における英語表現の研究を推進する。

- ・English day、English Festivalを活用した日常的に英語が飛び交う空間、雰囲気作りに取り組む。

〔2〕生徒指導の充実

◎児童の内面理解に努めるとともに、健全育成に向けて、組織的な対応に努める

①いじめ防止対策委員会を核に、いじめ防止や早期発見・早期対応・再発防止に向けた取組みを計画的に行う。

- ・生活アンケートや全員面談を活用し、早期発見に努める。

② 生徒指導面での「言語活動の充実」

- ・正しい言葉遣いと敬語表現、日常的な挨拶の励行、指名したときの返事「はい」。
- ・教職員、学童養護、来賓、保護者への挨拶の徹底。

◎生徒指導における実践力を意識する

①授業と学校教育活動全体の中で生かす「生徒指導の三つの視点」

【自己決定】

- ・児童主体の月目標の取組を推進する。強化月間を活用し、達成感を味あわせる。
- ・学習の構えの徹底とゴールを意識させ、選択肢のある授業展開を心がける。
- ・オープンスペースでのふるまいを意識し、まわりを考えて行動できる児童を育てる。

【共感的理解】

- ・目を見て、笑顔で、大きな声でのあいさつ運動を児童主体で行い、「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える雰囲気作り、心育てをする。

【自己存在感】

- ・委員会活動と縦割り班活動を連携させ、児童主体の活動の活性化を図る。
- ・「ほめる・励ます」の声かけや作品へのコメント付で自信を持たせる。
- ・小丸山賞の継続（無言清掃賞、家庭学習賞、学級賞、など）

〔3〕学力向上を支える体づくりの推進

◎自分の健康、食生活に関心を持ち、望ましい健康的な生活・食習慣を自ら確立しようとする児童の育成を目指す

①保健指導・食育の充実

- ・七尾市の生活アンケートから明らかになった本校児童の実態をふまえた保健指導、食育の改善に取り組む。
- ・保護者との連携を図り、家庭生活でも実践できるようにする。

②「体育」の充実

- ・スポチャレの年間継続により、運動を通して体力を育成するとともにクラスの共感的理解を図る。
- ・体力アップ1校1プランの推進。全校で確実に取り組む。

〔4〕「道徳」の充実

◎規範意識を育て、主体的に判断し行動できる児童の育成を目指す。問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、考え、議論する児童主体の学習への転換を意識する

①「道徳」と「学校教育活動全体」を通して「道徳的心情・判断力・実践意欲・態度」を育成する。

②全校一斉道徳授業の定期開催と授業内容の掲示を通して保護者に学校の取組みを理解してもらう。

〔5〕「特別支援教育」の充実

◎特別支援教育から学び、ユニバーサルデザインを通常学級へ取り入れる

①個の実態にあった「交流学級との交流」と「特別支援学級同士の交流」を大切にする。

②特別支援学級の研究授業から学び、ユニバーサルデザインを実践する。

〔6〕「幼・保・小・中・高の連携事業」の充実

◎児童・職員の交流により相互の理解を図る

①授業交流、学校研究、授業スタイル作り、ゴミゼロ運動、ふれあいコンサート、ようこそ集会、出前授業等の連携活動を通して相互理解、交流の場を広げる。外国語活動では児童・生徒の交流を推進する。

〔7〕「開かれた学校づくり」の推進

◎学校の教育活動を公開し、地域・保護者に学校に目を向けさせ、理解を得る

①フリー授業参観、学校公開週間、学校だより、生活指導だより、研究だより、学級・学年だより、HP、新聞報道、にこにこチャンネルなどの広報を利用する。

②「教育活動」と「学校評価結果及び対応策」の公開を確実にを行う。

〔8〕「保護者・地域との連携」の強化

◎地域の人材を活かした総合的な学習を展開する

① ふるさと学習を推進する。土曜授業で地域の素材や人材を活用する場を設定する。

② 「育小会・地域防犯協会・七尾警察署」との連携による危機管理、登下校時の安全管理を充実させる。